

## 専門家インタビュー

石橋克彦氏 神戸大名大学教授(地震学)

### 県内復旧の負担増す

東海地震説を提唱した地震学者の石橋克彦神戸大名大学教授(76)はリニア中央新幹線は南海トラフ巨大地震で新たな災害を生み出すと警鐘を鳴らす。

「リニアは大規模地震を考慮したルートになっているのか。」

「リニア計画を審議した国土交通省交通政策審議会の小委員会には地震の専門家がおらず、南海トラフ地震や活断層の影響を全く検討しなかった。重大な手落ちだ。リニアは多くの活断層を横切る。それらが活動すれば大惨事を生じかねない。糸魚川―静岡構造線断層帯が南海トラフ地震と連動しずれ動く可能性もある」

「リニア整備は大規模地震に備えて東海道新幹線を二重系化するためだと言われる。」

「東海地震を含む南海トラフ巨大地震が起これば、東海道新幹線とリニア中央新幹線の両方が大被害を受けるだろう。リニア路線の甲府盆地や名古屋付近は震度6強、場所によっては震度7になる。しかも激しい

揺れが数分以上続く。二重系化は意味がなく、わざわざ地震被害を倍増させるようなものだ」

「トンネルは地震に強いのか。」

「トンネル内は地震の揺れが弱いというが、断層破砕帯は強く揺れがちで、内壁の破壊や高圧水の噴出などが起こりうる。出入り口付近は山崩れなどで損壊しやすい。交差する活断層が活動すれば致命的だ。東海道線の丹那トンネルは工事中の1930年、北伊豆地震の際に丹那断層がずれて約2倍くらい違った。列車が巻き込まれば、トンネルの外と違って人命救助も復旧も非常に困難になる」

「南アルプストンネルの危険は。」

「地質が複雑で断層や破砕帯も多い。国内有数の隆起地帯だが、南海トラフ地震時には急激に沈降して、内壁の損壊や高圧水噴出のおそれがある。列車が走行中なら大事故になる。トンネル内で緊急停止した場合は、乗客は非常通路を何<sub>キ</sub>も歩いて地上に出るが、南アルプスの山奥で自力の下山は困難だ。山崩れも多発している中、静岡県は乗客の救助と医療に多大な負担を強いられる。県内の被災地の救援に大きなしわ寄せが生じるだろう」

いしばし・かつひこ 東京大卒、1997年以来「原発震災」を警告、2011年の福島第1原発事故で現実のものとなった。近著に「リニア新幹線と南海トラフ巨大地震」(集英社新書)。